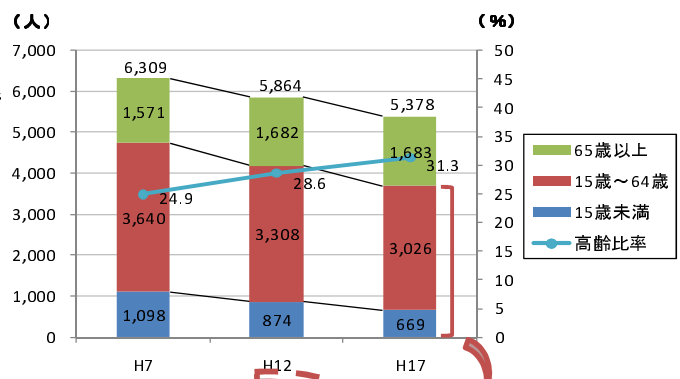


カルテ①: 朝日地域における現況とニーズの整理

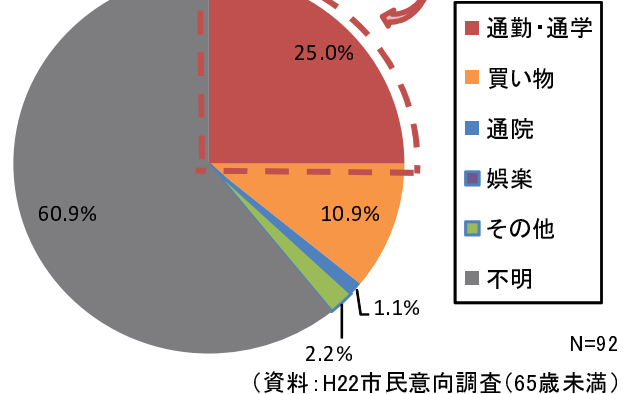
人口動態

- 人口は緩やかな減少傾向である。
- 一方、高齢化率は増加傾向である。
- 人口の約68%を占める65歳未満のうち、頻度の高い外出目的は「通勤・通学」が25.0%で最も多くなっている。

◆人口3区分及び高齢化率の推移



◆頻度の高い外出目的の割合



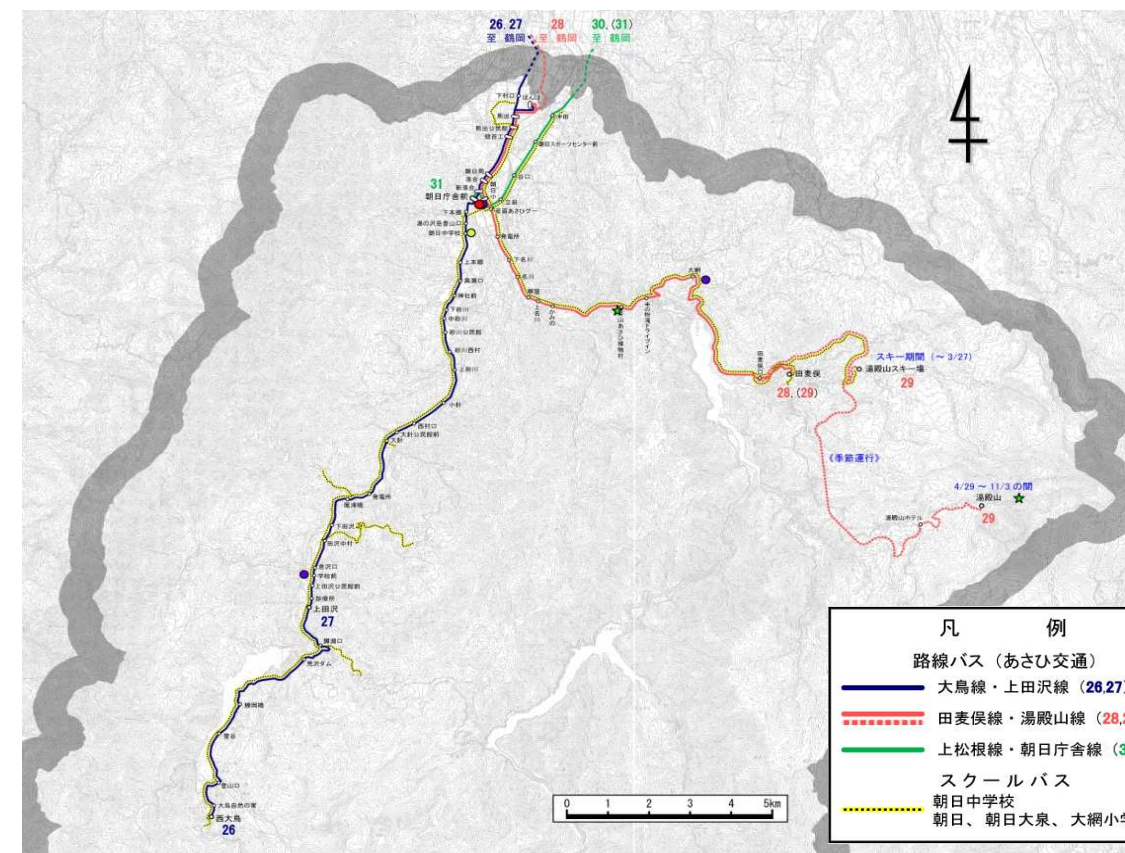
公共交通の利用及び収支状況(路線別)

- 「大鳥」「上田沢」「田麦俣」は運行回数は4～5.5回と多い一方、公費負担も1,220万～1,320万円と多くなっている。
- 「湯殿山」は田麦俣～湯殿山までの路線、「朝日庁舎」は上松根～朝日庁舎の延長運行を行っている路線のため、運行回数が「田麦俣」より2回、「上松根」より2.5回少ない。



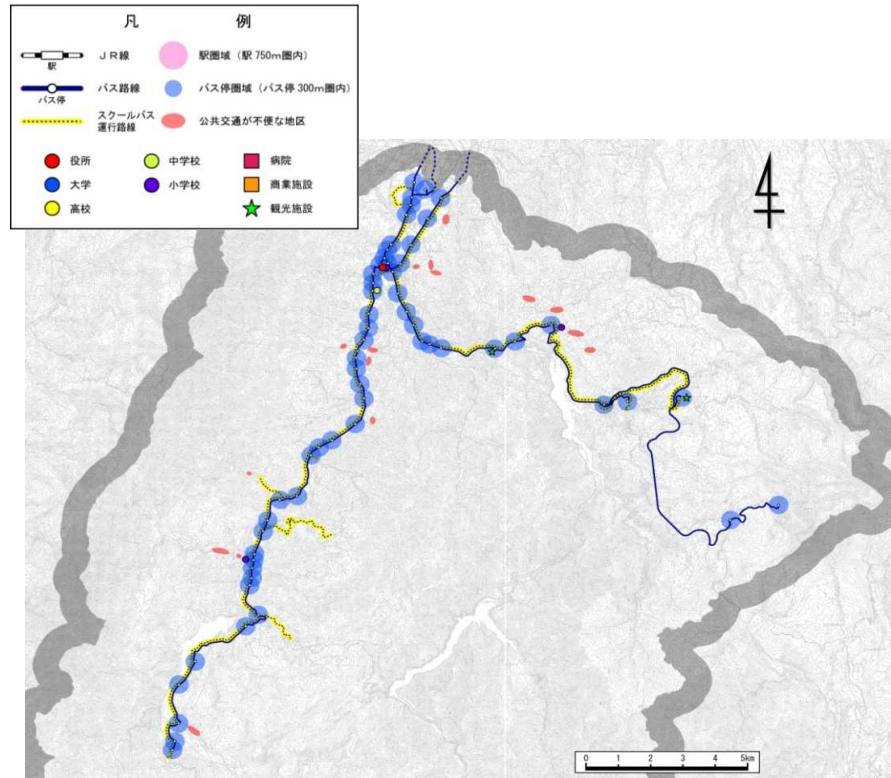
バス運行路線図

- バス路線は5路線あり、西大鳥方面と田麦俣方面の2系統に大きく分かれる。
- スクールバスの路線網は、路線バスと重複している。



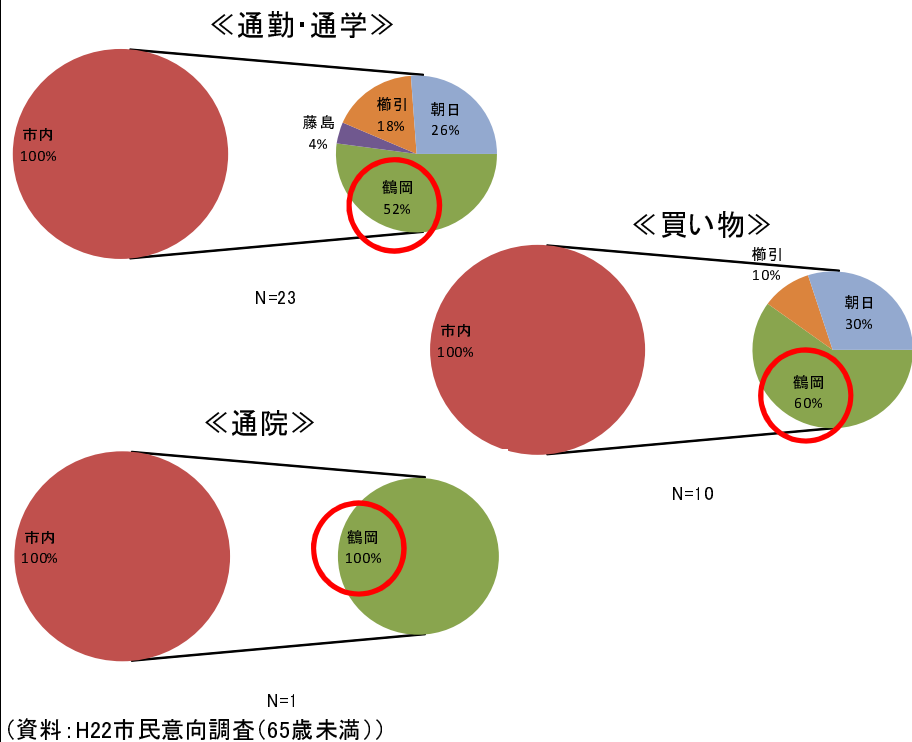
主な目的施設と公共交通空白区域図

- 現状の路線バスの路線網は、主な施設へのアクセス性が確保されている。



地域内の人の動き

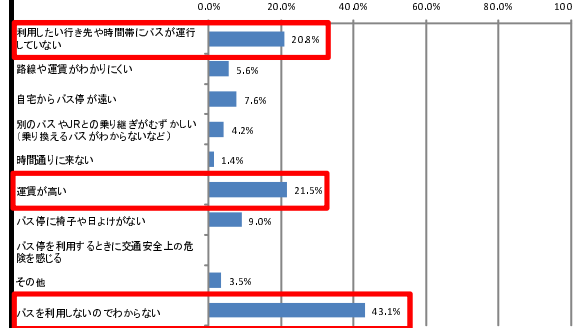
- 通勤・通学の行先は、「鶴岡」が最も多く52%、次いで「朝日」が26%、「榎引」が18%の順となっている。
- 買い物や通院に関しても、「鶴岡」が最も多くなっている。



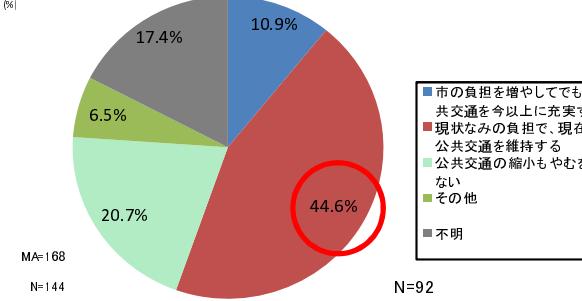
住民ニーズ(市民アンケート調査結果)

- 路線バスに対する不満点は、「運賃が高い」が21.5%、「利用したい行先や時間帯にバスが運行していない」が20.8%となっている。
- 一方、「バスを利用しないので分からない」が43.1%で最も多く、路線バスの利用率は低い。
- 今後のあり方については、65歳未満と65歳以上で「現状なみの負担で、現在の公共交通を維持する」が最も多くなっている。

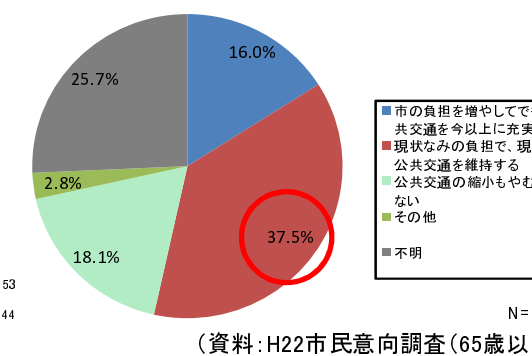
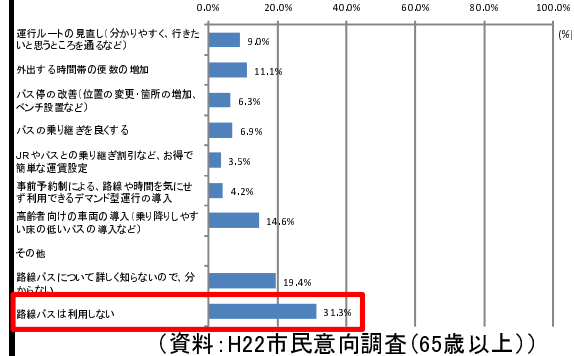
◆路線バスに対する不満点



◆路線バスの今後のあり方について



◆路線バスに対する改善要望



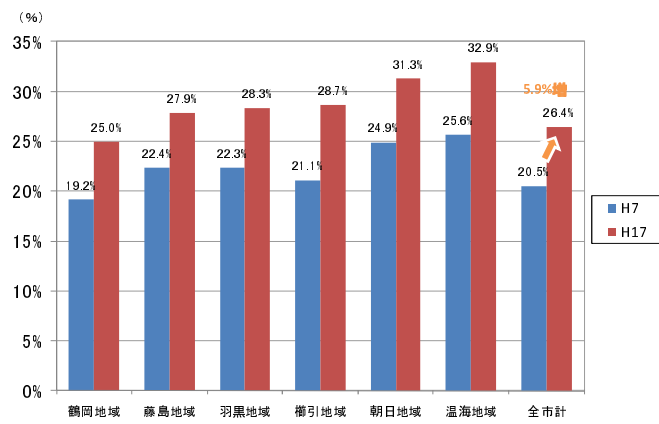
カルテ②：朝日地域の課題の解決に向けた方針と対策

問題点・課題

【問題点】地域の人口減少・少子化に伴い、バス利用者の確保が困難な状況となっている。

↓
【課題】バスを日常的に利用する人がおり、需要に見合った運行形態により、バスを運行維持していく必要がある。

- 朝日地域内の人口は、市内他地域と比較して減少が大きく、かつ、高齢化率も高くなっている。
- しかしながら、高校生の通学や高齢者の通院・買い物など、毎日の交通手段として、運行維持する必要がある。



【問題点】バス利用者が少ない中、運行路線が二股に分かれ、運行にかかる経費負担が大きくなっている。

↓
【課題】現在運行しているバスの運行形態を幹線・枝線等に再整理し、効率的な形態に変える必要がある。

- 地域内にはバスが3系統運行しており、そのうち2系統が二股に分かれて、山地部まで運行されているが、利用者は少ない。
- いずれか一方を幹線として運行サービスを高め、一方を乗り継ぎにより枝線化し、効率的な運行を行う必要がある。

【問題点】地域住民は、マイカー依存率が圧倒的に高く、公共交通利用に対する意識が薄い。

↓
【課題】高齢化社会を踏まえ、地域の貴重な交通手段としてバスを位置づけ、利用者拡大の可能性を地域住民全体で検討改善し、利用していくことで、運営継続させる必要がある。

- 地域内は、マイカー利用率が圧倒的に高く、公共交通利用者は極めて少ない。
- 住民には、バスの時間が合わないことで、マイカーで学校送迎を行っている家庭も存在し、運行時間やルートの改善により少しでも利用者を増やす必要がある。

対策方針(案)

方針① 既存公共交通体系の見直し

■ 既存路線の見直し

- 現在、運行している、路線バスを、地域の公共交通として総合的に捉え、効率的で維持継続することが可能な運行形態に見直しを図る。
- 運行形態の見直しにより、幹線・枝線を設定し、それら乗り継ぎが発生する拠点には、乗り継ぎ負担が軽減できるような、利便性の高い乗り継ぎ拠点施設を整備する。
- 現在、路線バスとスクールバスがほぼ同区間を運行しているため、スクールバスに混乗化する。

■ 新たな交通システムの導入

- 運行形態の見直しにより、需要が少ない地区へは、デマンド型交通等の新たな交通システムを試験導入し、将来的な導入可能性を検証する。
- また、現在公共交通の利用が不便な地区において、地区住民のニーズを踏まえながら、デマンド型交通等の導入可能性を検討する。

方針② まちづくりとバスの連携

■ 地域とのタイアップ

- 地域の病院施設や商業施設などと共に、バスの運行維持を支える、地域内での仕組みを構築する。

方針③ 公共交通利用に対する市民意識の醸成

■ 公共交通の維持継続に向けたPR

- 地域住民が、毎日の通勤・通学や買い物、通院など、様々な目的でバスを利用できるような啓発を行う。

対策メニュー(案)

■ 既存路線の見直し・新たな交通システムの導入

- メニュー1: 「鶴岡ー上田沢」線の幹線バス化、「落合ー湯殿山」線の枝線バス化。
- メニュー2: 「上田沢ー大鳥」区間の路線バスに代わる、新たな交通手段の導入(デマンド型交通・上田沢診療所患者輸送バスの混乗)。
- メニュー3: 「落合」における、乗り継ぎターミナル整備。「上田沢」における、乗り継ぎ拠点の整備。
- メニュー4: バス停が遠い集落における、バス停までのボランティア送迎のシステム構築。
- メニュー5: 路線バスの効率的な運行に向けたスクールバス混乗の検討・導入。

■ 地域とのタイアップ・公共交通の維持継続に向けたPR

- メニュー5: 通勤・通学、通院、買い物等の住民需要のバス利用促進、需要の掘りおこし。
- メニュー6: 地域住民、学校、病院施設、地元商店街などとの連携による、地域一帯となったバス利用の促進。

